

夢のつばさプロジェクト

2019 年秋の交流会 学生報告書

【日程】 2019 年 10 月 20 日（日）

【開催地】 宮城県：福沢市民センター、青葉区中央市民センター

【参加者】 子ども：16 名（小学生 7 名、中学生 7 名、高校生 2 名、専門学校生 1 名）

学生スタッフ・OB/OG（社会人を含む）：22 名

社会人スタッフ・協力者：2 名（同上）、保護者 4 名

◆2019 年秋の交流会について

子どもたちの長期休暇中に実施する夏冬のキャンプや春の交流会とは違い、日常生活の中にポンっとあるのがこの秋の交流会です。忙しい学校生活を送る子どもたちにとって、今回の秋の交流会がリラックスできて楽しい時間であること、そして夢のつばさのメンバーとの交流を通して、「明日からも頑張ろう！」と思えるような場であることを目指して企画しました。

直前に台風 19 号の上陸により各地で被害があり、子どもたちやご家族の安否が非常に心配されました。幸いにも皆の無事を確認することができましたが、中には浸水や停電でご苦労なされたご家庭でもありました。交流会を実施できることが当たり前ではないことに改めて気付かされる機会であったとともに、そのような中でもたくさん子どもたちが交流会に参加してくれることを心から有り難く思いました。保護者懇談会にも 4 名の保護者の方がご出席くださり、夢のつばさの活動を見つめ直す貴重な時間となりました。今回も多くの皆様のおかげで交流会を実施することができたことを心より感謝し、ここにご報告いたします。

◆タイムスケジュール・詳細

時間	子どもたちの動き	保護者会の動き
10:20	子どもたち 仙台駅集合	
10:35	仙台駅 発	
11:15	福沢市民センター 着	11:00～13:30
11:25	アイスブレイク 「じゃんけんバトル Vol.2」 「お絵かきリレー」	保護者懇談会 於：青葉区中央市民センター
12:20	企画「近況報告」	
12:40	昼食	

13:35	企画「王様ドッチビー」	
14:25	自由時間	
15:30	福沢市民センター 発	
15:55	仙台駅 着	
16:10	解散	

◆アイスブレイク



夢のつばさのキャンプや交流会で大切にしていることは「居心地の良さ」「アットホームな雰囲気」です。アイスブレイクは一番初めに行うレクリエーションであるため、小学生でも中高生でも、いつも来ている子でも久しぶり来た子でも、自然と皆の輪に入ることができ安心感を感じられるような時間にすることを目指しました。1つ目に行った「じゃんけんバトル」は夏キャンプでも行ったレクリエーションで、子ども学生関係なく全員でじゃんけんをしていくゲームです。「あ

いこになったらハイタッチ」というルールのもと、元気いっぱい嬉しそうにハイタッチをする子どもたちの姿や、年上の子が屈んで年下の子に高さを揃えてあげる様子が見られました。2つ目に行った「お絵かきリレー」は、何の絵かは言わずにお題の絵を次の人に見せ、うまくつなげられるかというゲームです。ここでも小さい子がうまく絵を描けない場面がありましたが、中高生の子たちが優しく見守っていました。思いがけず子どもたちの成長を感じさせられ、これからもこうして思いやりがつながっていくようなコミュニティであり続けたいと思いました。

◆近況報告

「お絵かきリレー」のあとは、グループでお互いの近況を伝え合う時間をとりました。私たちは夢のつばさのキャンプ以外での子どもたちの様子を見ることはできないので、普段の学校生活をどんな風に過ごしているのかとても気になるものです。学校行事や部活動の話をする子どもたちと、アルバイトや仕事の話をする学生と社会人。色々な世代の話を共有し合えるのが夢のつばさの強みであるなあと感じました。想像していた以上に子どもたちも学生の話に興味がある様子で、このように年齢の違う子どもたちと学生とで、ゆっくりお互いの話をききながら良い刺激を与え合えるような時間をこれからもっと意識的につくっていきたいと感じさせられました。



◆王様ドッチビー



お昼ご飯を食べたあとは、体育館に移動して全員で「王様ドッチビー」を行いました。思いっきり身体を動かしてリフレッシュできる時間になればという思いで企画しました。チームで1人王様を決めて、相手チームに気付かれないようにしながら王様を守ります。開始直後に王様の子が当たってしまったり、学生が子ども相手に本気になったり、子どもたちの皆のキラキラした笑顔がたくさん見ることができました。こちらから何も言わなくても、子どもたちが自然とお互いが嫌な思い

をしないように思い合って行動していて、夢のつばさの温かい雰囲気を作り出しているのは学生の意識だけではなく子どもたちなんだなと感じました。残りの時間はそれぞれが思い思いに過ごし、あっという間に帰る時間が来てしまいました。1日だけの交流会は毎年本当に一瞬で時間が経ってしまうので、子どもたちからも「もう終わり～？」と名残惜しむ声がたくさんきこえてきます。

◆保護者懇談会

今回は保護者の方4名、社会人スタッフ2名、社会人OB1名、学生スタッフ4名が参加しました。学生スタッフからは、今年度上半期の活動として「2019夏キャンプ」「ゆめのつばさスタディ」の報告と今後の予定として「2019冬キャンプ」「2020夏キャンプ」の告知をし、保護者の方からは普段の子どもたちの様子についてお話しいただきました。中学・高校進学を控えた子どもたちの保護者の方が多く参加されたことから、勉強やスマートフォンの使い方についてが話題の中心となりました。会は終始和気あいあいとした雰囲気で話が弾み、保護者の方とスタッフ間だけでなく保護者の方同士の交流の場ともなったことを嬉しく思いました。この場をお借りして、ご参加いただいた皆様に改めて御礼申し上げます。

◆秋の交流会を終えて

冒頭にも書かせていただきましたが、今回この秋の交流会が実施できたことも、これまで夢のつばさプロジェクトの活動が続いて今があることも、決して当たり前のことではないということを強く感じさせられ、私たちが子どもたちにできること、活動を支えてくださる方々に対してできることを真剣に考えてこの活動にかかわらなくてはいけないと改めて思いました。

交流会の中で子どもたちから「冬キャンプでは〇〇と同じ部屋にして!」「冬キャンプ行くね!」といった声がたくさんあり、保護者の方からも「今後もキャンプを続けてほしい。」という声をいただいています。子どもたちの中には中高生になって忙しくなり、毎回はキャンプに来られない子たちも増え

てきました。1回1回のキャンプをより大事にしないでほしいと思います。来てくれた子ども全員が「来てよかった」と思えるキャンプにしなければいけないと思います。そのために、私たちはもっと子どもたちのことを知る必要があります、子どもたちといろいろなことに挑戦して試みる必要があります。次の冬キャンプでは、子どもたちが今までにしたことのない経験や体験をすることができ、その中で子どもたちがどんなことを感じたのかを自分たちがしっかりと受け止めることを大事にしたいと思います。そして、これからのキャンプはもっと子どもたちと“いっしょに”つくっていただければと思います。

最後になりますが、いつも夢のつばさの活動を支えてくださる皆様に、この場を借りて感謝の気持ちを伝えさせていただきます。皆様のお気持ちがあって、私たちが子どもたちに関わり続けることができている。そのことを忘れることなく、今後も真摯に活動に取り組んでまいります。これからもよろしくお願いいたします。

学生代表 お茶の水女子大学3年 小野崎 すみれ